

分野（ 2 ） 気管支ぜん息・COPD患者の日常生活の管理、指導に関する調査研究

研究課題名：①就学期の患者の効果的な教育、指導モデルの構築

申請課題名：就学期の患者の効果的な教育、指導モデルの構築に関する研究

調査研究代表者氏名：小 田 嶋 博

評価コメント

- ・長年にわたって、同一の地域で同一の手法で同じ年齢層のぜん息等の疾患について調査を重ねて来て集積されたデータは、経時変化を検討する場合に非常に貴重である。
- ・受診していない、無自覚のぜん息児（いわゆる確信的無治療者）を掘り起し教育・指導してゆくプロジェクトである。
- ・公立学校への介入や調査は、広域で行う場合には教育庁・教育委員会等の理解が得られないと難しいが、本研究が開拓してきたように、医療機関が地区にある学校の校長の理解・協力を得て成果をあげてきた手法を、是非広めていただきたい。
- ・小、中、高等学校の3群への就学期別の指導モデルの構築に進展がある。
- ・今までの研究実績をもとに、広く活用できるマニュアルを作成し、普及することを期待する。
- ・何期かに亘っての研究であり、それなりの成果が得られていると思う。
- ・もし可能ならば、これまで行って来た小児期の患者教育が、成人に至る過程、あるいは成人になってからぜん息の寛解に寄与できたか否か検証してみると面白いと思う。
- ・家庭内受動喫煙の回避へのアプローチは重要であり成人への情報提供を地域全体に波及させる効果も期待したい。
- ・影響因子としてPM2.5や喫煙をあげ、それらについての検討は興味深い。
- ・研究テーマ全体の中で、PM2.5と気道過敏性に関する調査の位置づけが、はっきりしないと思われるので、あまり手を広げない方がいいかもしれない。
- ・確信的な無受診者へのアプローチも今後の課題であろう。